

平成27年度 アドバイザー派遣事業実施レポート

- 1 研究団体名 鳥取県中部小学校教育研究会社会科部  
 2 実施期日 平成27年5月29日～9月15日  
 3 実施場所 鳥取県東伯郡琴浦町立船上小学校  
 4 アドバイザーの所属と氏名  
 島根大学教育学部 加藤 寿朗 教授

5 研究の実際

(1) 研修テーマ

ふるさとのかかわりを大切に、主体的に学ぶ社会科学習  
 ～よりよい社会をめざして、見方・考え方を深める授業の追究～

(2) 研究の取り組み (授業研究会)

回	期 日	学年	教 科 主題名	研究会において確認した指導内容	参加数
1	5月29日 (金)	4年	社会科 「くらしを守る」	(1) 授業仮説の捉え ・「本時は何を身につけたいのか」「今日の学習の核はこれです」を明確にする。 (2) 見方や考え方を深める「問い」 ・「〇〇なのに、どうして△△だろう。」という「問い」は、『社会をつかむ』につながる。 (3) 調べる根拠を明示する ・調べる時間や根拠になる資料をどのように確保していくのかが、問題解決的な学習のポイントになる。	29名
2	6月10日 (水)	3年	社会科 「わたしのまちみんなのまち」	(1) 授業仮説はピンポイントで ・仮説を立てる意味は、授業をピンポイントで見ることで、発問や資料提示の有効性、学習の流れ等を評価することができる。 (2) 見方・考え方を深める「問い」 ・何を追究するかによって「問い」が変わり、「問い」を追究する中で見方・考え方を身につけることができる。 (3) 必然性のある資料 (教材開発) を用意する ・子ども自身が、学習問題を自分のものにするのできる資料選びが大切。	41名
3	7月1日 (水)	5年	社会科 「米づくりのさかんな地域」	(1) 「つけたい力」を明確にする ①資料を対比させながら大切な情報をつかむ ②学習課題を子どものものにする ・「おどろき」→「疑問」→「課題の設定」につながる、有効な資料提示をしたい (2) 新しい視点からチャレンジする教材開発のよさ ①教師自身が、興味・関心を持って教材開発すること	28名

				<p>がとても重要</p> <p>②各单元における押さえないポイントを持つ</p> <p>(3) 子どもの予備知識と押さえない内容を把握する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の体験を生かしたり農家の工夫</li> </ul> <p>願いを現場の声を使って学んだりする取り組みは有効</p>	
4	9月15日(火)	6年	社会科 「江戸幕府と政治の安定」	<p>(1) 資料は精選する</p> <p>①視点を明確にしておく</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料が持つ有効性を明らかにするための読み込みをする</li> <li>・資料を1～3点までに絞り込む</li> </ul> <p>(2) 立場に立って学ぶ</p> <p>①自分を登場人物に置き換える視点を持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史の中に登場する人物の立場で考えるのは見方や考え方を深めることに有効</li> </ul> <p>②資料の読み込みをていねいに</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料をしっかり読み込むことで歴史上の人々の考え方に近づくことができる</li> </ul>	28名

## 6 研究の成果

### (1) 「問い」を生む教材開発を進める

- ・教師自身が関心を持ち、新しい視点から教材開発することで、児童も関心を持って学ぶ姿勢につながることを確認できた。
- ・子どもの興味や関心、既習体験や地域の実態にあった資料を準備することで、子どもの思考の中に「問い」が生まれやすくなる事が理解できた。
- ・使用する資料は、何をつかませたいのか明確にし、多くの資料からねらいにあったものを精選してから、準備することを確認した。

### (2) 「問い」にこだわることで見方・考え方を深める

- ・複線型や否定型(〇〇なのになぜ△△なのか・・・)の「問い」を工夫することで、見方や考え方を深めることができることを理解できた。
- ・捉えさせたいのは何かをはっきりさせることが「問い」の質につながり、その質によって見方・考え方が深まることを理解できた。
- ・登場人物の立場に立って考えさせる「問い」を設定することで、その時代の登場人物になりきり、違う視点からの見方や考え方に繋がることが理解できた。

### (3) 授業仮説を設定する

- ・授業の核(ポイント)を明確にすることで、研究会の充実を図ることができた。
- ・仮説を設定し、練り上げることで準備する資料を精選したり、どのような「問い」が有効なのか確認することができた。